

特別基準の試験方法  
水道用マンガン砂

平成26年7月28日制定

項目	試験方法	摘要
試験基準	水道用マンガン砂(JWWA A 103-3)による。	
試験範囲	<p>定期工場調査における品質試験の試験範囲を次に示す。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 密度</li> <li>2. マンガン付着量</li> <li>3. 浸出性</li> <li>4. 寸法</li> <li>5. 表示</li> </ol> <p>1.、2. 及び4. について、被調査工場の設備を用いて、審査員が立会のもと試験を実施する。ただし、被調査工場にて試験が実施できない場合は、事前にセンターと協議する。</p> <p>3. について、センターが下請負契約を行った委託試験所にて試験を実施する。</p> <p>5. について、認証品の表示内容を確認する。</p>	
サンプリング	<p><b>サンプルの選定</b></p> <p>立会を実施する品質(物性、浸出性)の試験及び寸法に用いるサンプルは、センターが調査を実施する前に被調査工場と協議し、任意に選定する。</p> <p><b>サンプリング</b></p> <p>審査員は、試験に必要な量をサンプリングし、産</p>	立会

項目	試験方法	摘要
	<p>地、製造者、採取年月日、その他必要事項を確認する。</p> <p>品質の試験用サンプル：約0.6kg 浸出性試験用サンプル：約1.5kg（風乾試料625g）</p> <p>サンプルは、マンガン砂10m<sup>3</sup>ごとに約2kgを集める。集めたサンプルはよく混和した後、次のa)又はb)によって縮分採取する。ただし、少量の場合には、縮分回数及びサンプルは約2.1kgになるように調整する。</p> <p>a) <b>試料分取器法</b> 集めたサンプルをよく混和した後、試料分取器に入れてサンプルを2分割しその一方を残す。残したサンプルについてこの操作を繰り返し、必要量を採取する。</p> <p>b) <b>四分法</b> 集めたサンプルをよく混和し、これを円すい形に積み上げた後、適当な厚さをもつ円盤状に押し広げる。次に、互いに直角な2本の直線でこれを四分し、その対頂角の2部分を除く。残りの2部分を再びよく混和して円すい形に積み上げ、必要量のサンプルを得るため上記操作を繰り返す。</p> <p><b>サンプルの乾燥</b> サンプルの乾燥は、次による。</p> <p>a) <b>風乾試料</b> サンプル約1.5kgを清浄な皿に薄く広げ、自然乾燥又は扇風機を用いて緩やかに送風して、サンプルを指先でつまんで紙の上に落としたとき四方に飛び散る状態になるまで乾燥する。 この風乾試料は、浸出性試験に用いる。</p> <p>b) <b>乾燥試料</b> サンプル約500gを清浄な皿に入れ、表面を平らにした後さじなどで波目をつける。恒温乾燥器を用いて105±5℃で約3時間乾燥させ、デシケーター中</p>	

項 目	試 験 方 法	摘 要
密度	<p>で室温まで放冷して保存する。</p> <p>この乾燥試料は、寸法試験ののふるい分け試験に用いる。</p> <p>c) <b>洗浄乾燥試料</b> サンプル約100gを共栓試薬瓶500mlに採る。次に、精製水300mlを加えて密栓し、1分間150回の割合で、振り幅約15cmで1分間振り混ぜ、直ちに試薬瓶を傾斜して洗浄水の全量を捨てる。この操作を洗浄水の濁度が50度以下になるまで繰り返す。洗浄濁度が50度以下になったならば洗浄水を捨て、サンプルを清浄な皿に入れ、表面を平らにした後、さじなどで波目をつける。恒温乾燥器を用いて105±5℃で約3時間乾燥させ、デシケーター中で室温まで冷却して保存する。</p> <p>この洗浄乾燥試料は、物性試験の密度、マンガン付着量に用いる。</p> <p>なお、認証取得者は、サンプルの乾燥について、事前に行うことができる。</p> <p>マンガン砂の密度は、ゲーリュサック形比重瓶を用いて求める。</p> <p><b>器具及び脱気精製水</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. はかり 0.001gまではかることができるもの。</li> <li>2. 比重瓶 JIS R 3503:2007の付図59ゲーリュサック形比重瓶で、呼び容量50mLのもの</li> <li>3. 温度計 最小目盛りが0.5℃又は0.1℃のもの</li> <li>4. 水浴 器具内に入れた水を煮沸できるもの。</li> <li>5. 脱気精製水 JIS K 0050の7.1 a) (水)に規定するもので、かつ、電気伝導率2μS/cm以下の水を煮沸又は減圧によって十分に脱気したもの。</li> </ol> <p><b>試験方法</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 比重瓶を洗浄乾燥後、その質量(<math>m_1</math> g)をはかる。</li> </ol>	立会

項 目	試 験 方 法	摘 要
	<p>2. 次に、脱気精製水の水温(<math>t_1</math> °C)をはかった後、比重瓶に脱気精製水を満たし、比重瓶についた水滴を清潔な布等で完全にぬぐいさり、比重瓶の全質量(<math>m_2</math> g)をはかる。</p> <p>3. 洗浄乾燥試料約20g(<math>m_3</math> g)を0.001gのけたまで正確にはかり採り、比重瓶に入れ、脱気精製水を加えてその全量が比重瓶の容量の1/2～3/5になるようにする。</p> <p>4. 次に、比重瓶を水浴中で30分間静かに煮沸する。このとき、気泡を抜くため、10分ごとに比重瓶を静かに振る。</p> <p>5. 煮沸後、比重瓶を流水中に浸し、常温になるまで冷却する。</p> <p>6. その後、比重瓶に脱気精製水を満たし、室温の水槽中に比重瓶を首部まで浸し、1時間以上放置する。</p> <p>7. 1時間後に水槽中の水温(<math>t_2</math> °C)をはかり、比重瓶を水槽から取り出す。</p> <p>8. 比重瓶の外面を洗い、付着した水滴を清潔な布等で完全にぬぐいさり、比重瓶の全質量(<math>m_4</math> g)をはかる。</p> <p>なお、乾燥試料を比重瓶に入れるときには、その微量をも失わないように注意する。また、水槽水の水温<math>t_1</math> °Cと<math>t_2</math> °Cは近い値であることが望ましい。</p> <p>9. 計算</p> <p>1. ～8. で求めた値を(1)式に代入して、水温<math>t_2</math> °Cにおける乾燥試料の密度<math>\rho_1</math> を算出する。次に、(2)式によって、水温23°Cの水に対する密度<math>\rho_2</math> (<math>t_2</math> °C/23°C)の値に換算する。</p> $\rho_1(\text{g/cm}^3) = \frac{m_3 \times d_2}{m_1 + m_3 - m_4 + d_2/d_1 (m_2 - m_1)} \dots (1)$ <p>マンガン砂の密度 <math>\rho_2(\text{g/cm}^3) = \rho_1 \times K \dots (2)</math></p>	<p>立会</p> <p>立会</p> <p>立会</p> <p>立会</p> <p>立会</p> <p>立会</p> <p>立会</p> <p>立会</p>

項 目	試 験 方 法	摘 要																																																																																										
	<p> <math>m_1</math> : 乾燥した比重瓶の質量 (g)  <math>m_2</math> : 水温 <math>t_1</math>°C の脱気精製水を満たした比重瓶の全質量 (g)  <math>m_3</math> : 乾燥試料の質量 (g)  <math>m_4</math> : 水温 <math>t_1</math>°C の脱気精製水と乾燥試料とを満たした比重瓶の全質量 (g)  <math>t_1</math> : 脱気精製水の水温 (°C)  <math>t_2</math> : 水槽中の水温 (°C)  <math>d_1</math> : <math>t_1</math> における脱気精製水の密度  <math>d_2</math> : <math>t_2</math> における脱気精製水 (水槽中の水) の密度  <math>\rho_1</math> : 水温 <math>t_2</math>°C の水に対する乾燥試料の密度 (g/cm<sup>3</sup>)  <math>\rho_2</math> : 水温 23°C の水に対するマンガン砂の密度 (g/cm<sup>3</sup>)  <math>K</math> : 補正係数 (水温 <math>t_2</math>°C における水の密度を 23°C の水の密度で除した値) </p> <p>表 1 - 温度 4~30°C における水の密度及び補正係数</p> <table border="1" data-bbox="424 1111 1394 1883"> <thead> <tr> <th>温度°C</th> <th>水の密度</th> <th>補正係数K</th> <th>温度°C</th> <th>水の密度</th> <th>補正係数K</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>4</td><td>0.99997</td><td>1.0024</td><td>18</td><td>0.99860</td><td>1.0011</td></tr> <tr><td>5</td><td>0.99996</td><td>1.0024</td><td>19</td><td>0.99841</td><td>1.0009</td></tr> <tr><td>6</td><td>0.99994</td><td>1.0024</td><td>20</td><td>0.99820</td><td>1.0007</td></tr> <tr><td>7</td><td>0.99990</td><td>1.0024</td><td>21</td><td>0.99799</td><td>1.0005</td></tr> <tr><td>8</td><td>0.99985</td><td>1.0023</td><td>22</td><td>0.99777</td><td>1.0002</td></tr> <tr><td>9</td><td>0.99978</td><td>1.0022</td><td>23</td><td>0.99754</td><td>1.0000</td></tr> <tr><td>10</td><td>0.99970</td><td>1.0022</td><td>24</td><td>0.99730</td><td>0.9998</td></tr> <tr><td>11</td><td>0.99961</td><td>1.0021</td><td>25</td><td>0.99704</td><td>0.9995</td></tr> <tr><td>12</td><td>0.99949</td><td>1.0020</td><td>26</td><td>0.99678</td><td>0.9992</td></tr> <tr><td>13</td><td>0.99938</td><td>1.0018</td><td>27</td><td>0.99651</td><td>0.9990</td></tr> <tr><td>14</td><td>0.99924</td><td>1.0017</td><td>28</td><td>0.99623</td><td>0.9987</td></tr> <tr><td>15</td><td>0.99910</td><td>1.0016</td><td>29</td><td>0.99594</td><td>0.9984</td></tr> <tr><td>16</td><td>0.99894</td><td>1.0014</td><td>30</td><td>0.99565</td><td>0.9981</td></tr> <tr><td>17</td><td>0.99877</td><td>1.0012</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	温度°C	水の密度	補正係数K	温度°C	水の密度	補正係数K	4	0.99997	1.0024	18	0.99860	1.0011	5	0.99996	1.0024	19	0.99841	1.0009	6	0.99994	1.0024	20	0.99820	1.0007	7	0.99990	1.0024	21	0.99799	1.0005	8	0.99985	1.0023	22	0.99777	1.0002	9	0.99978	1.0022	23	0.99754	1.0000	10	0.99970	1.0022	24	0.99730	0.9998	11	0.99961	1.0021	25	0.99704	0.9995	12	0.99949	1.0020	26	0.99678	0.9992	13	0.99938	1.0018	27	0.99651	0.9990	14	0.99924	1.0017	28	0.99623	0.9987	15	0.99910	1.0016	29	0.99594	0.9984	16	0.99894	1.0014	30	0.99565	0.9981	17	0.99877	1.0012				
温度°C	水の密度	補正係数K	温度°C	水の密度	補正係数K																																																																																							
4	0.99997	1.0024	18	0.99860	1.0011																																																																																							
5	0.99996	1.0024	19	0.99841	1.0009																																																																																							
6	0.99994	1.0024	20	0.99820	1.0007																																																																																							
7	0.99990	1.0024	21	0.99799	1.0005																																																																																							
8	0.99985	1.0023	22	0.99777	1.0002																																																																																							
9	0.99978	1.0022	23	0.99754	1.0000																																																																																							
10	0.99970	1.0022	24	0.99730	0.9998																																																																																							
11	0.99961	1.0021	25	0.99704	0.9995																																																																																							
12	0.99949	1.0020	26	0.99678	0.9992																																																																																							
13	0.99938	1.0018	27	0.99651	0.9990																																																																																							
14	0.99924	1.0017	28	0.99623	0.9987																																																																																							
15	0.99910	1.0016	29	0.99594	0.9984																																																																																							
16	0.99894	1.0014	30	0.99565	0.9981																																																																																							
17	0.99877	1.0012																																																																																										

項目	試験方法	摘要
マンガン付着量	<p><b>判定</b> 密度は、2.57～2.67g/cm<sup>3</sup>の範囲であること。</p> <p>マンガン付着量は、マンガン砂を塩酸で溶解し、マンガン付着量を求める。試験は、以下のA法（フレイムレス—原子吸光光度法）、C法（誘導結合プラズマ—発光分光分析法）、D法（誘導結合プラズマ—質量分析法）のいずれかを用いて行う。</p>	立会
	<p><b>A法</b> <b>A法(フレイムレス—原子吸光光度法)</b></p> <p><b>試験方法</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 洗浄乾燥試料2g(m g)を0.001gまで正確にビーカー100mLにはかり採る。</li> <li>2. これにあらかじめ 38±2°Cに加熱した塩酸(1+1) 10mLを加えて、恒温水槽中に1時間静置する。</li> <li>3. 次に、0.45μmメンブランフィルターで濾過したのち、濾紙上の試料を精製水で数回洗浄し、濾液と洗液とを合わせて500mL(S mL)とし、これを検水とする。</li> <li>4. 検水の適量(マンガンとして0.002～0.1mgを含む量)(b mL)をメスフラスコ20mLに採り、精製水を加えて20mLとし、これを検液とする。</li> <li>5. その検液について、原子吸光光度計によってマンガン中空陰極ランプを用いて波長279.5nm付近の吸光度を測定する。</li> <li>6. 検量線の作成 検量線の作成は、JWWA Z 110:2013の附属書29の2.5による。 なお、被調査工場は、検量線の作成について、事前に行うことができる。</li> <li>7. 計算 マンガン付着量は、5.で求めた検液の吸光度と6.によって作成した検量線から算出する。検量線から</li> </ol>	<p>立会</p> <p>立会</p> <p>立会</p> <p>立会</p> <p>立会</p> <p>社内記録確認</p> <p>立会</p>

項 目	試 験 方 法	摘 要
C法	<p>検液中のマンガン量(a mg)を求め、次式によってマンガン砂1g当たりのマンガンの付着量を算出する。</p> $\text{マンガン (Mn mg/g)} = a \times S / b \times 1/m$ <p><b>C法(誘導結合プラズマ発光分光分析法)</b></p> <p><b>試験方法</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 洗浄乾燥試料2g(m g)を0.001gまで正確にビーカー100mLにはかり採る。</li> <li>2. これにあらかじめ 38±2°Cに加温した塩酸(1+1) 10mLを加えて、恒温水槽中に 1時間静置する。</li> <li>3. 次に、0.45μmメンブランフィルターで濾過したのち、濾紙上の試料を精製水で数回洗浄し、濾液と洗液とを合わせて500mL(S mL)とし、これを検水とする。</li> <li>4. 検水の適量(マンガンとして0.002~0.1mgを含む量)(b mL)をメスフラスコ20mLに採り、内部標準液2mLと精製水とを加えて20mLとし、これを検液とする。</li> <li>5. その検液を誘導結合プラズマ発光分光分析装置に導入し、JWWA Z 110:2013の附属書29の表7に示すマンガンの分析波長で発光強度を測定する。</li> <li>6. 検量線の作成 検量線の作成は、JWWA Z 110:2013の附属書29の4.5による。 なお、被調査工場は、検量線の作成について、事前に行うことができる。</li> <li>7. 計算 マンガン付着量は、5.で求めた検液の発光強度と6.によって作成した検量線から算出する。検量線から検液中のマンガン量(a mg)を求め、次式によってマンガン砂1g当たりのマンガンの付着量を算出する。 <math display="block">\text{マンガン (Mn mg/g)} = a \times S / b \times 1/m</math></li> </ol>	<p>立会</p> <p>立会</p> <p>立会</p> <p>立会</p> <p>立会</p> <p>社内記録確認</p> <p>立会</p>

項目	試験方法	摘要
D法	<p>D法(誘導結合プラズマ質量分析法)</p> <p>試験方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 洗浄乾燥試料2g(m g)を0.001gまで正確にビーカー100mLにはかり採る。</li> <li>2. これにあらかじめ 38±2°Cに加温した塩酸(1+1) 10mLを加えて、恒温水槽中に 1時間静置する。</li> <li>3. 次に、0.45μmメンブランフィルターで濾過したのち、濾紙上の試料を精製水で数回洗浄し、濾液と洗液とを合わせて500mL(SmL)とし、これを検水とする。</li> <li>4. 検水の適量(マンガンとして0.002~0.1mgを含む量)(b mL)をメスフラスコ20mLに採り、混合内部標準液4mLと精製水とを加えて20mLとし、これを検液とする。</li> <li>5. その検液を誘導結合プラズマ質量分析装置に導入し、JWWA Z 110:2013の附属書29の表9に示すマンガン及び内部標準の質量数のイオン強度を測定する。</li> <li>6. 検量線の作成 検量線の作成は、JWWA Z 110:2013の附属書29の5.5による。 なお、被調査工場は、検量線の作成について、事前に行うことができる。</li> <li>7. 計算 マンガン付着量は、5. で求めた検液のイオン強度と6. によって作成した検量線から算出する。検量線から検液中のマンガン量(a mg)を求め、次式によってマンガン砂1g当たりのマンガンの付着量を算出する。  マンガン(Mn mg/g)= a×S/b×1/m</li> </ol> <p>判定 マンガン付着量は、0.3mg/g以上であること。</p>	<p>立会</p> <p>立会</p> <p>立会</p> <p>立会</p> <p>立会</p> <p>社内記録確認</p> <p>立会</p> <p>立会</p>





項目	試験方法	摘要																		
	<p data-bbox="406 414 1141 459">表2－ふるい目開き <span style="float: right;">単位 mm</span></p> <table border="1" data-bbox="400 477 1177 748"> <tr> <td>2.00</td> <td>1.70</td> <td>1.40</td> <td>1.18</td> <td>1.00</td> <td>0.850</td> </tr> <tr> <td>0.710</td> <td>0.600</td> <td>0.500</td> <td>0.425</td> <td>0.355</td> <td>0.300</td> </tr> <tr> <td>0.250</td> <td>0.212</td> <td>0.180</td> <td>0.150</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </table> <p data-bbox="391 824 523 857"><b>試験方法</b></p> <ol data-bbox="422 869 1189 1899" style="list-style-type: none"> <li>乾燥試料約200gを0.1gのけたまではかり、ふるいに移す(m g)。</li> <li>次に、ふるい振とう機又は人力によって、ふるいに上下動及び水平動を与え、試料が絶えずふるい面を均等に運動するようにする。この操作については、ふるい振とう機による場合は10分間行い、人力による場合には、各ふるいごとに約10分間振とうを行う。</li> <li>ふるい分けが終わった後、各ふるいに残留した試料の質量(<math>m_0 \sim m_n</math> g)を0.1gのけたまではかり、記録する。また、ふるいの目に詰まった砂粒は、ふるいの目を傷めないように注意しながら押し戻し、ふるいに留まった量とみなす。</li> <li>このふるい分けについては、同一試料につき通常1回以上行う。</li> <li>各ふるいの残留質量によって累積通過質量及び累積通過質量百分率(%)を算出する。</li> <li>乾燥試料200gとふるい残留質量合計との差は、各ふるいに留まる残留質量に比例配分して補正する。差が1g以上の場合は、再度ふるい分け試験を行う。 なお、ロータップ形以外の振とう機を使用する場合には、5分間振とうを行い、更にふるいごとに人力によって1分間振とうする。</li> </ol>	2.00	1.70	1.40	1.18	1.00	0.850	0.710	0.600	0.500	0.425	0.355	0.300	0.250	0.212	0.180	0.150	—	—	<p data-bbox="1204 869 1268 902">立会</p> <p data-bbox="1204 958 1268 992">立会</p> <p data-bbox="1204 1227 1268 1261">立会</p> <p data-bbox="1204 1451 1268 1485">立会</p> <p data-bbox="1204 1541 1268 1574">立会</p> <p data-bbox="1204 1630 1268 1664">立会</p>
2.00	1.70	1.40	1.18	1.00	0.850															
0.710	0.600	0.500	0.425	0.355	0.300															
0.250	0.212	0.180	0.150	—	—															

項 目	試 験 方 法	摘 要
	<p>7. 各ふるいの残留質量からそれぞれの累積通過質量及び累積通過質量百分率(%)の算出の一例を、次の式及び表3に示す。</p> $m = m_0 + m_1 + m_2 + \dots + m_n$ $a_0 = 0$ $a_1 = m_0 = m_0 + a_0$ $a_2 = m_0 + m_1 = m_1 + a_1$ $a_3 = m_0 + m_1 + m_2 = m_2 + a_2$ <p style="text-align: center;">. . .</p> $a_n = m_0 + m_1 + \dots + m_{n-1} = m_{n-1} + a_{n-1}$ $a_n + m_n = m$ $b_0 = a_{0-1} / m \times 100 = 0$ $b_1 = a_1 / m \times 100$ $b_2 = a_2 / m \times 100$ <p style="text-align: center;">. . .</p> $b_n = a_n / m \times 100$ $b_n = a_n / m \times 100 = 100$ <p>m : 各ふるいの残留質量の合計値(g)  m<sub>0</sub>~m<sub>n</sub> : 各ふるいの残留質量(g)  a<sub>0</sub>~a<sub>n</sub> : 各ふるいの累積通過質量(g)  b<sub>0</sub>~b<sub>n</sub> : 各ふるいの累積通過質量百分率(%)</p> <p>8. 粒度加積曲線の作成 対数確率紙の横軸にふるい目開きをとり、縦軸に累積通過質量百分率(%)をとって作図する。これに7.で求めた、それぞれの値をプロットし、これらの点を直線で結んだものを粒度加積曲線とする。</p>	<p>立会</p> <p>立会</p>

項 目	試 験 方 法	摘 要
	<p>9. 有効径 マンガン砂の粒度加積曲線図において、累積通過質量百分率 10%に対応する横軸の値を有効径(mm)とする。</p> <p>10. 均等係数 マンガン砂の粒度加積曲線図において、累積通過質量百分率 60%に対応する横軸の値を60%粒径(mm)とし、次式によって均等係数を算出する。</p> $\text{均等係数} = \frac{60\% \text{粒径 (mm)}}{\text{有効径 (mm)}}$ <p>11. 最大径及び最小径 マンガン砂の粒度加積曲線図において、累積通過質量百分率99%及び1%に対応する横軸の値をそれぞれ最大径及び最小径(mm)とする。</p> <p><b>判定</b> 寸法は、表4の規定及び購入者が定めた要求事項に適合すること。</p>	<p>立会</p> <p>立会</p> <p>立会</p> <p>立会</p>

項目	試験方法			摘要
表3-ふるい分析表				
ふるい目 開き mm	ふるいの残留質量 (測定値) g	累積通過質量 g	累積通過質量 百分率 %	
A <sub>n</sub>	m <sub>n</sub>	a <sub>n</sub>	b <sub>n</sub>	
A <sub>n-1</sub>	m <sub>n-1</sub>	a <sub>n-1</sub>	b <sub>n-1</sub>	
A <sub>n-2</sub>	m <sub>n-2</sub>	a <sub>n-2</sub>	b <sub>n-2</sub>	
・	・	・	・	
A <sub>5</sub>	m <sub>5</sub>	a <sub>5</sub>	b <sub>5</sub>	
A <sub>4</sub>	m <sub>4</sub>	a <sub>4</sub>	b <sub>4</sub>	
A <sub>3</sub>	m <sub>3</sub>	a <sub>3</sub>	b <sub>3</sub>	
A <sub>2</sub>	m <sub>2</sub>	a <sub>2</sub>	b <sub>2</sub>	
A <sub>1</sub>	m <sub>1</sub>	a <sub>1</sub>	b <sub>1</sub>	
受皿	m <sub>0</sub>	a <sub>0</sub>	b <sub>0</sub>	
合計	m		100	
注記 A <sub>1</sub> ~A <sub>n</sub> は、各ふるいのふるい目開き				

項 目	試 験 方 法		摘 要													
	<p>表 4 - 寸法</p> <table border="1" data-bbox="392 477 1120 929"> <thead> <tr> <th colspan="2" data-bbox="392 477 635 566">項 目</th> <th data-bbox="635 477 1120 566">寸 法 規 定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="392 566 459 748" rowspan="2">寸</td> <td data-bbox="459 566 635 656">有効径 mm</td> <td data-bbox="635 566 1120 656">0.45~0.7</td> </tr> <tr> <td data-bbox="459 656 635 748">均等係数</td> <td data-bbox="635 656 1120 748">1.7以下</td> </tr> <tr> <td data-bbox="392 748 459 837" rowspan="2">法</td> <td data-bbox="459 748 635 837">最大径 mm</td> <td data-bbox="635 748 1120 837">2.0以下</td> </tr> <tr> <td data-bbox="459 837 635 929">最小径 mm</td> <td data-bbox="635 837 1120 929">0.3以上</td> </tr> </tbody> </table>		項 目		寸 法 規 定	寸	有効径 mm	0.45~0.7	均等係数	1.7以下	法	最大径 mm	2.0以下	最小径 mm	0.3以上	
項 目		寸 法 規 定														
寸	有効径 mm	0.45~0.7														
	均等係数	1.7以下														
法	最大径 mm	2.0以下														
	最小径 mm	0.3以上														

項 目	試 験 方 法	摘 要
表示	<p><b>表示</b></p> <p>表示は、次の事項をこん包用袋等に表示していることを調べる。なお、多量の場合には、ストックヤード等の納入場所に保管し、その適切な箇所に表示板等によって明示していることを調べる。</p> <p>a) 認証取得者名又はその略号  b) 品質確認実施工場名又はその略号  c) 具備している性能項目が識別できる表示  (認証登録番号又は規格番号)  d) 品質認証マーク  e) 水の記号  (用途が水道用であることを示す記号等)  f) マンガン砂の容積  g) マンガン砂の寸法  h) 製造年月</p> <p>注 b)については、センター及び認証取得者が識別できればよい。</p> <p><b>判定</b></p> <p>表示は、間違っているもの、抜けているものがないこと。</p> <p style="text-align: center;">付 則</p> <p>この試験方法は、平成26年8月1日から実施する。</p>	立会